

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山 (櫻館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2172800548-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2172800548-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

うららびより金山の開設15年を迎える。自然豊かな場所に位置しアクセス面においても利便性に優れている。ぬくもりの里、金山地域での唯一のグループホームである。隣接する温泉では地域交流を目的として、外出支援に力を入れている共に、地域の方々とのふれあいを大切にしている。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山々に囲まれた自然豊かな場所に位置し、近隣には市の総合病院、道の駅や天然温泉施設、スポーツ施設等がある利便性の良い地域にある。利用者は、恵まれた生活環境の中で、日々戸外に出かけ、地域とふれあいながら、笑顔で暮らしている。職員は、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、残存機能を引き出しながら、意欲的な生活が送れるよう支援している。また、季節毎の外出を計画し、楽しみにもつなげている。管理者は、職員それぞれの力量を把握し、ホーム全体で連帯感を強めながら、利用者が最期まで、安心して暮らせるよう取り組んでいる。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(櫻館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回、職員会時に理念、心得等を職員全員で唱和し、意識付けを行い確認し合って実践につなげている。	理念は、ホームの目立つ位置に掲示し、職員は、常に意識しながら、その意義を共有している。職員は、利用者の持てる能力を活かしながら、身体機能を維持できるよう支援し、笑顔の絶えない毎日を送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩や外出で地域の方と出会いがある。ボランティア(フラダンス、手品、紙芝居、歌唱レク)の来訪、小学校の福祉学習での触れ合い、防災訓練等の行事に参加し交流を深めている。	地域には、様々な施設があり「ぬくもりの里プロジェクト」の一員としても交流している。様々なボランティアが定期的に訪れ、小学5年生の福祉実習も継続している。近隣からは、野菜の差し入れが日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症を学ぼう」という会を開いて地域の方に情報発信を行った。地域での認知症でお困りのご家族様に参加頂き、講演会を開催することが出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族や地域の方、市の担当者の方々に事業所の取り組み改善等を話し合い、意見を頂いてサービス向上に活かしている。	運営推進会議を隔月に開催し、運営の実情や活動報告を行い、防災訓練実施後には、災害対策や備蓄品について意見交換している。広域災害の事例からも対応策を話し合い、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市担当の職員に出席を頂いて協議をしている。地域の区長さんの出席もある。	市の担当者には、運営推進会議の場で実情を伝え、助言を得ている。人材の確保や事故、防災対策、申請事案なども相談し、協力関係を築いている。今年度は、市長の訪問があり、ホームの現状を見てもらいながら、利用者とのふれあいが実現している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会のテーマにも取り上げ理解を深める様になっている。	身体拘束等適正化委員会を定期に開催している。職員の勉強会は、回を重ねながら内容の充実を図っている。これまでも拘束ゼロを実践しているが、スピーチロックによって、利用者の行動や精神を制限してはいないかを意識して、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で具体的な事例について話し合いの機会を設けている。勉強会にて理解を深め、防止に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員より、職員会で勉強会を設け、事業や制度について学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について読み合わせ、生活面での不安、お困りごとをお聞きできるように十分に時間を設けている。物品購入等、細かなことについても十分に説明を行っている。場合により文書で同意を得て購入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席者は少ないが貴重な意見も頂く事があるので職員間で共有している。	利用者と家族の意見や要望に、速やかに対処している。家族から、概ね高い評価を得ているが、職員の仕事ぶりに感謝しつつも、「職員が不足しているのでは？」との意見もあり、ホーム便りに手紙を添えて、家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や面談時を通して職員の意見を聞き反映させる様に努めている。	管理者は、職員の意見や提案を、定例会議と個人面談の場で聴いている。また、職員一人ひとりの力量を把握し、人生経験や介護経験を踏まえて、意識、技術、働く意欲を高めながら、介護力の向上につなげている。	さらなる職員の資質及び専門性の向上の為、年間を通じた学習計画の策定に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の力量を把握するように努めている。必要に応じて面談の機会を持っている。本部関連の研修に参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握する事に務めている。必要に応じて面談の機会を持っている。本部関連の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびよりの全事業所の代表者及び管理者が集い毎週月曜日は、営業会議を行いサービスの質の向上をめざしている。その一環で子供食堂の開催や空き家対策にも取り組んでいる。また、毎月1回のケアマネ会議も開催し勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように可能な限り、居宅のケアマネージャーさんに同席してもらっている。職員の情報共有でご本人の気持ち、希望、不安を理解し関係性を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにみえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集シートを用いて事前面談を行っている。入所前に職員全員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からも声が掛けやすい雰囲気を作る様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族レター」等を通して個々の職員の思いを伝え関係づくりに役立っている。共に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人等の訪問時には、居室、リビング等で歓談して頂いている。	家族は頻回に訪れており、遠隔地の利用者家族は連休の際に訪れる事が多い。利用者の知人で理容師やボランティアの人もあり、定期的に顔を合わせている。また、地元恒例のイベントへ出かけたり、馴染みの場所へドライブを兼ねて出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年間を通した行事や日常的なレクリエーションの機会を通して、関わり合いを出来る様に支援している。共通の話題等を取り上げ、利用者同士が参加出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺って経過フォローできるように相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的、又はカンファレンスの機会を通じて希望、意向を職員同士、共有する様に努めている。	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの思いを把握するよう努めている。困難な人は、問いかけ時の表情や反応、言動から汲み取り、職員間で共有している。利用者の何気ない言葉に耳を傾けながら、本人本位の暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前情報の把握に努め、利用者の暮らしを理解する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、生活記録、気づきノートを利用し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスで職員が情報交換、課題について意見や考えを出し合い、介護計画に生かしている。	職員会議で支援経過を検証し、意見や気づきを踏まえて介護計画を作成している。家族の意向は、訪問時や電話で把握をしている。介護計画は、症状の安定を図りながら転倒予防にも取り組み、現状に即して見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、生活記録に加え、気づきノート、申し送りノートを活用し、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の一方的なサービスにならぬ様に、ご要望をお聞きし柔軟な支援に努めている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、行事、音楽療法、福祉学習で地域資源活用や触れ合い、楽しんで頂く様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員からの申し送り、気づきノート、申し送りノート等を活用し、又、本人、家族の意向をお聞きし適切な医療を受けられる支援している。	かかりつけ医は、利用者と家族が選択している。協力医と歯科医の往診体制があり、遠方の専門医へ受診する利用者もある。通院は、家族の要望により職員が代行し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきノート、申し送りノート等を用い看護師と職員の連携を図り、綿密な看護を受けれるように支援している。利用者のちょっとした体調変化も看護職に報告し協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、情報提供書を用いてすばやく情報を提供できるように心掛けている。口頭や文書にて利用者様の状態や経過を報告し管理者、ケアマネジャー、看護師が病院へ伺い病院関係者と情報交換を行っている。退院時には関係者とカンファレンスを行い退院をスムーズに行える様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化やケアの変更があれば、その都度ご家族へ連絡をしている。また、終末期には主治医、ご家族、職員間で話し合いをして方針を共有するように努めている。	契約時に、重度化・終末期の方針を利用者と家族に説明し、同意を得ている。段階的に関係者で話し合い、方針を選択している。看取りは数例の実績があり、職員は、より良い看取りケアが行なえるよう学びを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時は手順の対応と連絡網を実施し職員の連携をとっている。講習等を定期的に行い、日頃から心構えをし実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、定期的に避難訓練を実施し災害時に備えている。市の防災訓練に参加している。定期的に勉強会を実施している。	消防署の指導を受けながら、毎月、自主訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し協力関係を築いている。運営推進会議でも災害対策について話し合い、防災頭巾やカセットコンロ、照明、食料の備蓄量や内容を検討し、災害時における職員参集時間等も話し合っている。	近年、想定外の災害が多発している。災害の種別に応じたマニュアルの整備にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛け等をみかけた時にはその都度、注意し合い改善する様になっている。言葉遣いや声掛けの仕方を職員会議で話し合い利用者様を尊重した支援を心掛けている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない対応に努めている。利用者と目線を合わせ、笑顔で声かけをするよう心がけ、声のトーンにも配慮している。また、言葉遣いについても、慣れ合いにならないよう職員間で周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話や気持ちの汲み取りをして思いに添う様支援を心掛けている。急いで答えを引き出すのではなく時間をかけ取り組もうとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	独りで居たい方、レクリエーションを楽しみたい方等、個々にご本人のやりたい事や過ごしたいペースで希望に添って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で身支度できる方はその時にあった服を着られるが、どれを着たら良いか探してみえる方や着替えが困難な方には職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化が進み調理参加が出来なくなっている。食器拭きや片付け等は出来る方へお願いしている。	食事は、個々の嗜好や嚥下力に合わせた形態で提供している。家庭的な味付けで完食を目指し、職員と一緒に会話しながら楽しい食事時間となっている。調理は難しいが、利用者も出来る人が片づけに関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取の記録をし状態を把握している。一人ひとりの状態や習慣に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が各々の利用者様に対応し口腔ケアを実施している。歯科受診、訪問歯科の利用もしている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用や職員声掛けで排泄パターンの把握をし自立支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄につなげている。布パンツ利用の人も多く、自立の継続を支えている。夜間は、状況や体調に合わせ、適切な排泄用品を選択し、本人負担の費用削減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を確認し、必要に応じて看護師、ケアマネに相談、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に添った入浴支援を出来る様に努めている。時間の制約は現状では施設の状況による事となる。	入浴は週3回の体制で支援し、利用者の希望にも柔軟に応じている。体調によっては、ドライシャンプーでの代替もある。風呂好きの利用者が多く、習慣や介助者の相性にも配慮しながら、安全・安楽な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本が希望されたり、体調や下肢の浮腫等、声掛けしベットで休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理している薬指示により現場の職員が支援している。体調が悪い時には状態を看護師に報告し薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には声掛けし、洗濯物干し、畳み、食器拭きや片付け等をして頂いている。可能な限り、1人1人に合った支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、日向ぼっこ、散歩、ドライブ等に出かけている。月毎の行事計画をたてて外出を楽しんで頂いている。	天候の良い日には、途中の御堂や公園のベンチで休みながら、周辺を散歩している。喫茶店のモーニングを楽しんだり、毎月の外出行事では様々な場所へ出かけている。年間行事として、桜や向日葵、紅葉狩り等へ行ったり、ドライブを兼ねて道の駅などにも出かけている。	

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にないと心配される方もみえる、本人と家族と相談し持って頂いている。本人の希望により必要な物を買って頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用して自由にご家族様等とお話頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やその時に応じた作品を作って頂き、展示して季節感を取り入れている。	共用の間には、季節の花や観葉植物、壁には干支のはり絵、習字、塗り絵などを飾っている。華やかな雛段、花モチ飾りにも季節感がある。食堂兼居間は広く、畳の間には堀炬燵があり、利用者は、好きな場所で居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の思いを配慮しながら食事の席やレクの席を考え配置している。おしゃべりや、独りで過ごす居場所を工夫しつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の整理をお手伝いし居心地よく過ごして頂ける様にしている。家具の配置(ベットから降りていかれる時もスムーズに行かれるよう配置に気をつけている)又、居室はいつも清掃を行い気持ちよく過ごして頂いている。	居室には、整理筆筒、衣類掛けなどを備えている。趣味の作品や馴染みの品々、誕生日の色紙等を飾り、家族の写真も目線に置き、利用者が落ち着けるよう工夫している。窓からは明るい陽光が注ぎ、居心地よい居室になっている。携帯電話の所持者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全で自立した生活が送れる様に環境づくりに努めている。人感チャイム、センサーマット、鈴を使用し転倒防止や安全対策をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山 (向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(向日葵館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回 職員会時に全員で理念唱和し確認、共有し日々の関わりの中で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩や外出(観音様、朝取市場、湯ったり館、飛山)で地域の方と出会いがある。ボランティア(フラダンス、手品、紙芝居、歌唱レク)の来訪、小学校の福祉学習での触れ合い、防災訓練等の行事に参加し交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修会の実施。地域での認知症でお困りのご家族様に参加頂き、講演会を開催することが出来た。地域の防災訓練に参加し入所者の方への支援をお願いした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。参加された方の意見を伺う機会はあるが、利用者様家族の参加が多くなると良い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	医療、介護の多職種連携による会議、懇談会で顔のみえる関係づくりや金山地域連携会議の参加で協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、玄関は防犯上施錠している。個々の居室については利用者様のご自身で施錠されている方もみえる、職員が開錠し安全を確認している。職員会時に勉強会を設け職員同士、意見を出し合い理解を深めるようにしている。ご家族から要望があっても身体拘束の弊害を説明し、事業所の方針を示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で具体的な事例について勉強会、意見交換を行い、防止に努めている。不適切なケアについて言葉遣い等、気になる時は職員間で話し合っている。		

グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員より職員会を通して勉強会を行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について読み合わせ、生活面での不安、お困りごとをお聞きできるように十分に時間を設けている。物品購入等、細かなことについても十分に説明を行っている。場合により文書で同意を得て購入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席者は少ないが貴重な意見も頂く事があるので職員間で共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換を設けている。各担当係りの月1回報告の際、課題や提案をあげてもらい反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員と定期的に面談を行っている。前期、後期と自己評価表に各々、目標等を記入し、面談時に課題や思いを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握するように努めている。必要に応じて面談の機会を持っている。本部関連の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびよりの全事業所の代表者及び管理者が集い毎週月曜日は、営業会議を行いサービスの質の向上をめざしている。その一環で子供食堂の開催や空き家対策にも取り組んでいる。また、毎月1回のケアマネ会議も開催し勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように可能な限り、居宅のケアマネージャーさんに同席をしてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにもえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集シートを用いて事前面談を行っている。入所前に職員全員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の以前の暮らしや生活習慣に配慮し話しやすい家庭的な雰囲気づくりに努めている。利用者様の生活についての悩み、要望等をすぐお聞き出来る様に努めている。利用者様同士、楽しく生活できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族レター等を通して個々の職員の思いを伝え関係づくりに役立っている。面会の際、ご様子をお伝えさせて頂き、家族の思いを引き出せる様にしている。夏祭り、がやがや会議を開催して一緒に過ごす機会をつくっている。外泊、地域の祭りへの参加等はご家族に協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援等でお食事会、イベントへ参加することで、地域の方、知人からお声を掛けて頂いている。ドライブで馴染みの場所へ出掛け、又、写真をアルバムにして思い出を深めている。近隣住民の方と出会い、話されることもあり楽しみにされているので継続出来る様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、色々な話題でコミュニケーションを図れる様に雰囲気を感じ声掛け見守り支援を行っている。又、孤独、不穏時には職員が間に入り、共に暮らし、良好な関係づくりをサポートしている。利用者様同士がお互い困っている事を話されたり声を掛け合って支えられるように支援している。		

グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺って経過フォローできるように相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思い、希望を聞いた際は気付きノートで情報共有している。又、カンファレンスで思いや意向を職員間で検討し把握に努めている。普段の何気ない会話より希望をお聞きし実践につなげるように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、情報共有を行い利用者の暮らしを尊重、理解し把握に努めている。入院看護要約でこれまでの経緯や把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づき、介護、生活、排泄等の記録や申し送り、及び職員間の情報共有で利用者様の現状把握に努めている。関わりの中で過ごし方など気づいた事は記録に残し情報収集し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、カンファレンスで介護職、看護職連携し、利用者様の課題、要望、想いを話し合い、ケアのあり方について意見、アイデアを出し合っている。必要に応じて申し送り等で伝えるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に、日中、夜間の様子を報告し情報共有している。モニタリングでも実践状況を把握し、介護計画に反映できるよう努めている。記録等から情報共有し実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の一方的なサービスにならぬ様に、ご要望をお聞きし柔軟な支援に努めている。		

グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の福祉学習での触れ合い、月1回音楽療法、地域のボランティア(手品、紙芝居、フラダンス)外出支援で食事会や喫茶利用など楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様等の希望でかかりつけ医院への継続した受診を勧めている。病状によりご家族様に報告、相談の上、専門医の受診をしていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間を通して看護職へ利用者様の状態、気づいたことがあれば報連相を行い、適切に対応できるように努め、協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は口頭や文書にて利用者様の状態や経過を報告している。また、管理者、ケアマネジャー、看護師が病院へ伺い病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化やケアの変更があれば、その都度ご家族へ連絡をしている。また、終末期には主治医、ご家族、職員間で話し合いをして方針を共有するように努めている。4月に看取りの勉強会を行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会で勉強会を設け実践力を身につけるよう努めている。過去の事例報告から対応を情報共有している。又、緊急時を想定し、職員緊急連絡網で連携を確認し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、定期的に避難訓練を行っている。防災担当者の組織編成づくり。地域の防災訓練に参加し、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人ひとりを尊重し、優しい声掛け、想いに寄り添った思いやりのある対応を心掛けている。個々に声掛けの仕方も工夫し支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中での声掛け、見守り、表情や会話、雰囲気から利用者様の思いを汲み取る様に心がけ、利用者様から話される機会も大事にしている。又、小さな事でも自己決定して頂ける様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調、気分、ご希望にあわせて、その人らしく過ごして頂けるように要望やペースを大切に支援を心掛けている。会話の中で一人ひとりのペース、行動パターンを把握しながらその日、その時のペースで過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のペースでゆっくり身支度して頂き、その人の好み、生活習慣の中で決定出来る様に支援している。身だしなみに対してのこだわりを把握し、ご本人の思いに添った支援が出来る様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理全般は職員が主に行っている。食材によって一緒に下処理を行ったり、郷土食(ほうば寿司)やぼたもち作りなどしている。季節ごとの行事で家庭でのごちそう、旬な食材について歓談し合い楽しみを持っていただいている。食事の片付け、台拭きなど役割をもち行っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して、必要な食事量、水分量が利用者様の状態を把握し、確保できるよう支援している。水分量摂取の少ない方には、起床時、散歩後など声掛け、工夫し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、1人1人の口腔状態に合わせた口腔ケアを行っている。ご自身で出来ない方には職員が介助しケアを行っている。定期的に訪問歯科を利用されている方もみえる。		

グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況表を活用し、パターンの把握、下肢筋力アップの運動を行い、立位保持や排泄の自立に向け支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関受診時には、医師に相談し予防に取り組んでいる。腸内環境を整える食事メニューの工夫、ストレスの影響、水分摂取の声掛け、散歩や体操等で予防を図り、個々に応じた支援を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	食後の入浴は体の負担が大きい為、夕食前までの時間で冬場など気温の高い時間帯に入浴して頂いている。お体の状態によって福祉用具を活用し安全に入らせて頂いている。ゆず湯など楽しんで頂いたりご本人の希望する湯の温度、時間に配慮させて頂き、コミュニケーションを図りながら希望に添った支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、1人の時間をゆったりと過ごして頂いている。安眠出来る様に希望に添いながらゆっくり傾聴し個々に応じて対応し、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携や薬情報ファイルで情報共有し理解と把握している。症状変化を看護師に報告、医師より服薬調整等の指示を頂いて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の作品作りで完成を一緒に喜んで達成感を感じて頂いたり、外出、行事等で季節の移ろいも楽しんで頂いている。食器拭き、片付け、洗濯物干し、たたみと家庭でやってみえた役割を張り合いにして頂いたり、関わりの中でご本人のやりたい事を役割としてもって頂き、楽しみや喜びが増えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩等、天候良い日は出掛けている。その都度、ご希望を伺っている。家族の外出のご協力が出掛けられている方もみえます。行事、外出計画により楽しめる様に工夫している		

グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、家族の希望により、ご自身で管理し持ってみえる方もある。日用品の買い物際は必要なもの、ご希望を伺って買わせていただいている。お預かり金はご本人、家族に了承頂いて、事務所で管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望や必要時に電話をしていただいている。又、プライバシーに配慮し電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にしている。季節の花と一緒に生けたり、作品を壁面に飾り出れ事を利用者様同士語り合われたり、季節感を感じられる空間作りに努めている。個々に応じてプライバシーに配慮しながら生活しやすい環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席などご自由に過ごして頂いている。レクリエーション時や利用者様の状況によってご希望を聞いて椅子等の配置を工夫している。個々の生活パターンやこだわり等を配慮して思いに添って過ごせる様に居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族が相談して家具などご家族のご協力を頂いている。写真や作品を飾ったり、馴染みの物を生かし、安心して過ごして頂けるよう努めている。ご本人にとって大切なもの、使い慣れたもので居心地よさがでる様にご本人の希望に添って配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間時は人感チャイム、鈴等を活用し、安全対策をしている。現在出来ることを継続できるように支援している。		